

# キリストの光 光のキリスト

四旬節第3主日 3月11日

(ルカ13・1-9)

「悔い改めなければ、滅びる」。恐い言葉。「罪深い者」という言葉に、心が敏感に反応する。聞きたくない言葉だ。

恐怖に耐えながらも、何度のも何度この言葉を読んでも。「罪深い」自分の経験に照らし合わせて読んでみる。このままでは、どう読んでも、救いの言葉、福音には聞こえない。わたしは、この言葉で救われない。

「罪を犯してはならない」というのが信者への至上命令のように伝えられてきた。生きる目的は「罪を犯さないこと」とさえ思えるほどに強く印象づけられてきた。待降節が、四旬節が来るたびに「悔い改めなければ」と思い、

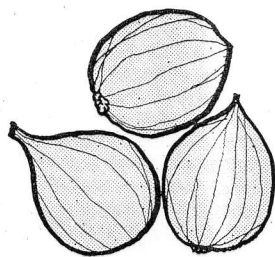
## 滅びに向かっている

努力してきた。何年も…。そうしないと滅びるから。そして、そこには何年たつても変わらない「罪深い」自分がまだいる。

人は悪いことをする。それを罪と呼んだりする。そのような悪い状態でいると滅びるよ。地獄に行くよ。ちゃんと反省して、良い人間にならなければ救われないよ…。これがイエスの教えだろうか。倫理的に正しく生きることが人生の目的だろうか。イエスはそれを教えに来たのだろうか。そのように教える人はごまんといる。そのような教えでは人は救われない。果たしてそうなのか、と思う。イエスの言葉に触れれば触れるほど、今まで疑う余地

のなかだったこの言葉が理解できなくなってきた。回心とは、改心とは、悔い改めとはどういう意味なのか。「罪深い」とはどういうことなのか。

イエスは「回心して…悔い



改め、福音を信じなさい」と言う。イエスは「回心しない、悔い改めないと滅びる」と言う。「回心」と「悔い改め」は同じ言葉。イエスに心を向けること。回心とはそのようなこと。人と共にい

る、最も貧しくされた人と共にいるイエスを見ること。そして、そのイエスの視線で周りを見ることに。そこに福音、救いのメッセージがある。貧しくされている人たちと連帯して立ち上がることに。そうすることが救われるということではないか。

自分の罪を見ているだけでは救われぬ。ただ、良い人になろうと努力することが救いへの道ではない。それはイエスが言う悔い改めではない。

自分のことだけ考え、高みから見ているだけで何もしないなら、自分も含めてこの世界は確実に滅びへの道を歩むことになる。現代世界を見れば明らかである。世界は確実に

に滅びへの道を歩んでいる。それは、わたしたちがイエスの呼び掛けに答えて「悔い改め」ようとしていないからではないか。

「いちじくの木が実をつける」とはこの世界が神が望まれる世界になっていくこと。来世ではなく、今のこの世界が。弱く貧しくされている人たちが、その貧しさから解放される時、イエスが言う真の救いが実現することになる。

(山元眞一福岡教区司祭／カット＝高崎紀子)

### 今週の福音

|       |     |           |
|-------|-----|-----------|
| 12日・月 | ルカ  | 4・24—30   |
| 13日・火 | マタイ | 18・21—35  |
| 14日・水 | マタイ | 5・17—19   |
| 15日・木 | ルカ  | 11・14—23  |
| 16日・金 | マルコ | 12・28b—34 |
| 17日・土 | ルカ  | 18・9—14   |